

令和５年度 横川西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

生きる力を育む教育活動を通して，心身共に健康で，自ら学ぶ意欲をもち，心豊かな児童を育成する。

児童目標【げんきで かしく やさしい子】

◇健康で がんばる子ども ◇よく考え すすんで学ぶ子ども ◇きまりを守り 思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

一人一人が 自信をもち 輝ける学校づくり

子どもたち一人一人が，学校で学ぶ楽しさ（学習・生活）を実感し，自他を大切に互いが成長し合える学級・学校を目指す。

【目指す学校像】

○子どもたち一人一人に 学ぶ楽しさと心の成長が感じられる学校

○教職員が自分の力を発揮し 働く喜びを味わえる学校

○家庭や地域から信頼される 魅力ある学校

【目指す教職員像】

○教育的愛情と真の優しさ・厳しさをもち 子どもに寄り添い行動する教職員

○協調性と協働性をもち 学び合い向上する教職員

○保護者や地域住民と進んで関わり 信頼される教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）○一人一人が「わかる，できる，楽しい」と学びを実感できる授業づくりに努める。

（２）規範意識や思いやりの心など，一人一人の心づくりに努める。

（３）健康に関する自己管理能力を育成するとともに，自ら進んで体力づくりに励み，たくましく生きる人づくりに努める。

（４）○全教職員の共通理解のもと，一人一人を大切にした児童指導の充実に努める。

（５）○家庭・地域と協働して子どもたちを育てる信頼される学校づくりに努める。

（６）教職員が協調性と協働性をもち，共に学び合うとともに各々のよさが発揮できる組織づくりに努める。

（７）校内業務の適正化（明確化や簡略化等）を図るとともに，教職員の健康安全を大切に，指導の質的向上に配慮しつつ持続可能な学校体制づくりに努める。

【陽南地域学校園教育ビジョン】主体的に活動できる子どもを育む小中一貫教育

～生きる力の基本となる知識・技能とコミュニケーション能力の育成～

4 教育課程編成の方針

（１）本年度の学校教育目標，経営方針の示すところにより，学校の実情，児童の実態を考慮し，特色ある学校づくりが実現できるよう編成する。

（２）習熟度別学習やＴＴ，教科担任制を取り入れ，「個に応じた指導」「楽しく分かる授業」を展開し，基礎的・基本的な事項の確実な定着が図れる教育課程編成に努める。

（３）児童の発達段階を考慮し，教科等横断的な視点で，各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成し，カリキュラム・マネジメントの充実に努める。

（４）地域の自然，文化，伝統などの教育資源を有効に生かす教育活動を編成する。

（５）児童一人一人の自己肯定感を，学校教育活動全体を通して育成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・互い（児童・教職員）が成長し合い、一人一人が自信をもって輝ける学校づくりを推進する。
- 児童の心に寄り添い、一人一人の心が成長する学校づくりを推進する。
- 真の優しさと厳しさをもち、児童・保護者・地域を愛し、信頼される学校を目指す。
- ・業務改善や勤務時間に対する意識改革を図り、学校における働き方改革をさらに推進する。

(2) 学習指導

- 学ぶ楽しさを実感し、主体的に学びに向かう児童の育成を目指す。
- ・基礎・基本の確実な習得と活用を目指す授業づくりを推進する。
- ・「課題を理解する場、見方・考え方を働かせ課題解決に取り組む場、対話し学びを伝え高め合う場、振り返る場」等の授業の展開の仕方や発問を工夫し、新学習指導要領の趣旨を具現化させる授業を実践していく。
- ・1人1台端末等のICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指すとともに、教科の学びが深まるよう指導の充実を図る。
- ・中学年以上を対象とした本校独自の教科担任制による指導の充実を図る。

(3) 児童生徒指導

- きまりを守ることの大切さや人を思いやる心の大切さを理解し、互いに他を認め合える児童の育成を目指す。
- ・児童の特性の理解と対応、いじめ防止及び早期発見・早期解決、不登校児童への組織的・計画的支援、自己肯定感を高める支援等を工夫する。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- ・児童一人一人が自己の健康・体力に関心を持ち、体力の向上と自己管理能力を高める教科体育・保健学習の充実を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、粘り強く学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 88%以上	①学習課題の提示の仕方や教材を工夫する。 ・児童が興味・関心をもって取り組めるよう学習活動の工夫・改善を推進する。 ②基礎・基本の確実な定着を図る ・少人数指導・習熟度別学習等の工夫をする。 ・学習形態を工夫し、互いの意見を伝え合う活動を積極的に取り入れる。 ・発表や話し合いの仕方、ノートを活用、必要な情報の集め方について系統的・発展的に指導できるよう全教職員で共通理解を図り取り組んでいく。	B	【達成状況】 児童 86.0% 教職員 83.9% 保護者 89.2% 【次年度の方針】 児童・教職員の肯定的回答の割合は数値目標を下回っている。 本校児童は、自分の考えを言葉で表現することに苦手意識をもっている。 コミュニケーションツールとしてタブレットを活用することで、主体的に学習に取り組むことができた。 学習課題や学習形態を工夫し、互いに意見を伝え合う活動や協働して取り組む学習の場を設ける。

1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 児童・保護者 「児童は、誰に対しても、思 いやりの心をもって優しく接 している。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	①道徳教育の充実を図る。 ②教育相談やQ-Uの結果等を参考に して、児童の考えや悩みを適切に捉 え指導にあたる。 ・児童からの悩み相談に対しては、学 級担任、学年、学校全体で支援にあ たる。 ③児童同士が認め合える環境作りとし て、構成的エンカウンターやSSTを、 学級活動等に取り入れていく。また、学 校行事や児童会活動、縦割り班活動な どの実施方法を工夫するとともに、認 め合い活動を行う。	【達成状況】 児童 87.2% 教職員 80.6% 保護者 92.2% 地域住民 100% 【次年度の方針】 縦割り班活動、縦割り清掃や行事など で異年齢交流を行い、児童のよい行動を 教師が積極的に認めたり褒めたりする 機会を作る。
	A 3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は、夢や目標に向かっ てあきらめずに、粘り強く取 り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以 上・保護者の肯定的回答 80%以上	①児童の自己肯定感を高められるよ う、児童相互に認め合う場を数多く 設けるとともに、教職員は認め励ま す指導に努める。 ②各教科の授業や各種検定等におい て、児童が目標をもって取り組む機 会を設け、目標の達成に向けて努力 する姿勢を称賛するとともに、学年 だより等により保護者へ周知して いく。 ③道徳科の授業において、目標をも って粘り強く取り組むことの大切さ に気付かせるとともに、実践への意 欲を高める。	【達成状況】 児童 86.4% 教職員 90.3% 保護者 83.8% 【次年度の方針】 児童の肯定的回答が目標値の 85%を 超えている。保護者の肯定的回答も目標 値の 80%を超えている。今年度の取り組 みが効果的であったのだと考える。次年 度も引き続き継続していく。
1- (3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進	A 4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 「児童は、健康や安全に気を 付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回 答 90%以上	①児童が自分の健康に気を付けて自 ら健康を管理できるよう、学級活 動、体育、学校行事と関連を図った 保健指導や日常生活指導を行う。 ・うがい・手洗い等の励行やハンカ チ、ティッシュの携行、教室の換気、 給食時の手順等について、指導の充 実を図る。 ②学校給食と各教科等との関連を図 った指導のもと、栄養のバランスの とれた食事や望ましい食習慣の形 成を図る。 ③危機を予測し適切な意思決定と行 動選択できる力を身に付けること ができるよう、日常における安全指 導を充実する。 ・室内での過ごし方、廊下の歩行や校 庭での遊び方など、「横西小よい子 の一日」を活用して指導していく。 ・交通事故予防、特に自転車の乗り方 について、保護者への協力を依頼す る。 ④家庭と連携した取組となるよう、便 り等により情報を共有し、取組の充 実を図る。	【達成状況】 児童 91.0% 教職員 87.1% 保護者 83.9% 地域住民 100% 【次年度の方針】 児童の肯定的回答は目標を達成した が、教職員と保護者は目標を達成できな かった。目標設定を昨年度の 85%から 90%に上げたこともあるが、学校生活の 安全面に関して十分とは言えないと感 じる教職員が少なくない。特に休み時間 開始時の廊下の歩行に課題が見られる。 「横西小よい子の一日」を活用して、廊 下の歩行について重点指導していく。 さわやかチェックによる保健指導が 定着し、衛生面での意識が向上してき た。

1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%・80%以上	①学級活動や児童会活動での話し合い活動を充実させて、児童が主体的に学校生活の諸問題を解決していこうとする態度を育てる。 ②縦割り班活動や清掃活動などの異年齢活動を実施し、協力して活動する態度や責任をもって役割を果たそうとする態度を育成する。 ③宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ④学級活動等で使うキャリアパスポートを活用することで自分の成長を実感したり、勤労観や職業観を学年の発達段階に応じて育めたりするようにする。	【達成状況】 児童 86.8% 教職員 96.8% 【次年度の方針】 学級会や委員会において、学校や学級での諸問題に関する話し合いを取り入れたことで、児童が自分事として課題を解決しようとしていた。 縦割り班活動や清掃活動などの異年齢交流を通して、相手を思いやる心や協力する態度を身に付けることができた児童も多い。 当番や係など学級内でも役割を与え、自分のよさを発揮できる環境作りが大切だと考える。今後も継続して支援、指導していく。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「児童は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 88%以上	①外国語や外国語活動の授業を通じて、外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②外国語や外国語活動に関する情報収集や授業を相互に見合う機会を充実させ指導力の向上を図る。 ③めあてを明確にし、児童が話したい・やってみたいと思える場を設定することにより、英語で会話できたという自己肯定感を育む。	【達成状況】 児童 73.4% 教職員 74.2% 【次年度の方針】 主に授業中は、外国語指導助手の質問に対して英語での受け答えができている。 担任のT1として英語の授業が充実できるよう、教員の英語の授業力向上のための取組ができるようにしていく必要がある。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%・75%以上	①生活科、社会科、総合的な学習の時間国語科、道徳科において「宇都宮学」を計画的に実施する。また、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。 ③学校の取組について、各種たよりやHP等で保護者・地域に対しても発信に努める。	【達成状況】 児童 81.2% 教職員 64.5% 保護者 67.3% 【次年度の方針】 宇都宮を題材とした授業は限られているので、授業以外でも宇都宮について知る機会を設ける。 保護者に対しても、学年便りやホームページ等で、児童の様子を伝える。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①タブレット端末等の活用により、主体的・対話的で深い学びを促進するとともに、児童の機器活用能力や情報活用能力の育成を図る。 ②学校図書館の学習・情報センターとしての機能の充実を図る。 ③ICTや図書資料を活用した学習に関して、家庭への情報提供を行う。	【達成状況】 児童 82.2% 教職員 100% 保護者 81.8% 【次年度の方針】 教職員と児童との間に認識の差が見られる。デジタル機器や図書等を活用した際に、その有効性を児童が感じることができるよう振り返りを児童にさせていく。

2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①生活科、社会科、総合的な学習の時間国語科、道徳科において「宇都宮学」を計画的に実施する。また、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。 ③学校の取組について、各種たよりやHP等で保護者・地域に対しても発信に努める。	【達成状況】 児童 84.3% 教職員 58.1% 【次年度の方針】 児童の図書の貸し出し状況からも「持続可能な社会」について関心をもっていることが分かる。 教科等の授業や学校の取組から、SDGsとの関連を見出し、話題にふれながら指導をしていく。
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 95%以上	①校内支援委員会等で具体的な指導目標や指導の手立てを設定し、教職員の共通理解のもと指導に当たる。 ・児童の実態把握や児童の特性に合った支援を強化していく。 ・担任とかがやきルーム指導員が指導記録を交換し連携強化を図る。 ②特別支援学級における指導の充実を図る。 ・児童の実態を的確に把握し、一人一人障害特性に応じた指導を行う。 ・保護者や関係職員と連携を図りながら、交流及び共同学習を積極的に推進する。	【達成状況】 教職員 93.5% 【次年度の方針】 校内支援委員会を計画的に行い、教職員が共通理解を行いながら指導に当たることができている。かがやきルーム指導員と連携し合いながら行っていることで、好ましい変容が見られる児童もいる。しかし、複数名の特別な支援を要する児童に対応する場合、個別指導が困難になり、適切な支援が難しい場合もある。次年度も保護者と教職員同士の連携を図りながら、特性に応じた指導を行えるようにしていく。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	①「横西小いじめ防止基本方針」に基づき、全職員で指導に当たる。 ②日常の児童の言動に気を配り、小さなトラブル（SNSトラブル等の防止も含む）も見逃さず、いじめは許されない行為であることを指導し、未然防止に努める。 ③児童会によるいじめゼロ集会での取組等について、児童会だよりで子どもたちから発信したり、いじめ標語を校内に掲示したりする。 ④学校のいじめの未然防止の取組について、各種たよりやHPにより保護者・地域に対し啓発を図る。	【達成状況】 児童 95.8% 教職員 100% 保護者 70.7% 地域住民 100% 【次年度の方針】 SNSの利用について、トラブルが起これることもあるが、学校では対応が難しいこともあるため、各家庭で使い方についての呼びかけや状況の把握をお願いする。また、出前授業を各学年で（実態に応じて）行う機会をつくる。学校生活を通して、児童の話にしっかりと耳を傾け、不満を解消することができるようになる。保護者の達成状況が低いことから、保護者に対しても引き続き丁寧に対応していく必要がある。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくっている。」 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 「教職員は、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員の認め励ます指導に努め、児童の自己肯定感を高める。 ②児童の状況にあった支援策を検討する。 ・児童の欠席状況等を把握し、ケース会議等で学校の支援の方針を話し合い、共通理解を図りながら、学校全体で組織的・計画的に支援を行う。 ・学校の支援方針について保護者の理解と協力を得ながら、同じ目標に向かって支援を行う。 ③別室登校支援や放課後の個別登校支援の充実を図る。 ・児童の状態に応じた適切な支援がなされるよう、多様な場の設定や支援策（オンラインの活用等）がなされるように努める。	B	【達成状況】 児童 95.2% 教職員 96.8% 保護者 86.3% 【次年度の方針】 保健室の利用による、別室登校支援は効果が現れている事例もある。ただし、保健室としての機能が低下してしまうことも考えられるため、利用時間の決まりや、他の対応などを検討する必要がある。
3－(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	①適正な学校運営に努める。 ・学校評価を生かした保護者・地域と一体化した活気ある学校づくりを推進する。 ・担任と一緒に学級集団で遊ぶ時間を設けるなど児童一人一人を大切にしたい居がいのある学級づくりに努める。 ・個々の児童の困り感に対し、より丁寧に対応できるよう、家庭との連携を図る。 ・あいさつ運動の推進を図る。	B	【達成状況】 児童 95.8% 教職員 100% 保護者 83.6% 地域住民 100% 【次年度の方針】 児童・教職員の肯定的回答の割合は数値指標を上回っている。保護者の肯定的回答の割合は数値指標を下回った。普段の授業の様子等を学年便りや学校便り、ホームページ等で知らせるなどの啓発を図るなど、発信の方法を検討していく必要がある。
4－(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 93%以上	①学習指導の工夫・改善を図る。 ・明確なめあての提示、板書の工夫等指導方法の改善を図る。 ・児童の「学ぶ楽しさ」や「主体的に学びに向かう態度」を高める学習展開を工夫する。 ・習熟度別学習や少人数指導・TT指導等を効果的に実施する。 ・一人一授業を実施するとともに、授業力向上のためICTを活用した校内研修の充実を図る。	B	【達成状況】 児童 96.0% 教職員 96.8% 保護者 82.1% 【次年度の方針】 授業の目標を明らかにし、学習課題や学習形態を工夫し、個に応じてきめ細やかに指導ができた。 教職員相互の授業の見せ合いや研修会を通して、授業力の向上に努める。

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①教職員と専門スタッフが連携した取組を充実させる。特に、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携した取組をさらに充実する。 ②学校図書館司書や学校栄養士について、年間指導計画に位置付け活用の充実を図る。 ③行事の企画や準備・ケース会議等、様々な教育活動にチームとして取り組めるような体制づくりをさらに充実する。	【達成状況】 教職員 80.6% 【次年度の方針】 教職員の肯定的回答の割合は数値指標を下回った。学校図書館司書や学校栄養士と連携を図りながら指導ができるように年間計画を見直し、より積極的に活用できるようにしていく。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革を推進する。 ・管理職は教職員の毎月の時間外勤務の状況を正確に把握する。 ・毎月第2・第4金曜日を「ノー残業デー」とし、着実に取組を進める。 ・教職員は、業務の精選を常に意識して勤務するとともに、「何時まで」「どこまで」などの個人目標を設定して、勤務の効率化を図る。	【達成状況】 教職員 77.4% 【次年度の方針】 教職員の肯定的回答の割合は数値指標を下回った。教職員各自が勤務の効率化を意識しながら勤務に臨むようにするとともに、登校指導など教員の業務削減として示されている業務を検討していく必要がある。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 「学校は小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	①義務教育9年間を通じた系統的な指導を行う「小中一貫教育カリキュラム」を推進する。 ・カリキュラムの地域学校園化・自校化を進める。 ・地域学校園で授業のきまりを設定するなどして学習の基盤を整える。 ・地域学校園の児童会・生徒会がオンライン交流会議等を実施し協力体制を高める。 ・乗り入れ授業やあいさつ運動等、小中一貫の取組を学校だより等で紹介し、保護者・地域への周知を図る。	【達成状況】 児童 88.7% 教職員 74.2% 保護者 76.0% 地域住民 100% 【次年度の方針】 児童・地域住民の肯定的回答の割合は数値指標を上回っている。教職員・保護者の肯定的回答の割合は数値指標を下回った。陽南5校の児童会・生徒会によるひまわりプロジェクトのような地域学校園で行った活動を、さくら連絡網等を利用して保護者に発信する等啓発を図る。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	①地域人材の活用や企業の専門性を生かした学習を推進する。 ・地域の「見守り隊」「自治体」「育成会」等の各団体との連携・協力を推進する。 ・児童がお世話になっている方や各活動について、活動の様子を掲示することで見える化を図る。 ・学校における取組をHPや学校だより等により、発信していく。	【達成状況】 児童 89.5% 教職員 90.3% 保護者 84.1% 地域住民 100% 【次年度の方針】 地域住民の肯定的回答の割合は数値指標を上回っている。保護者の肯定的回答の割合は数値指標を下回った。年度当初に保護者や地域への学習支援ボランティアを募集して登録するなどの体制を継続して整える。また、地域コーディネーターと連携して、地域の人材を積極的に活用できるようにする。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者・地域住民 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答 90%以上	①定期的な安全点検の実施により環境整備を図る。 ・施設・設備・器具・用具等の定期的な安全点検を実施し、点検結果に基づいた維持管理や改善を図る。	【達成状況】 教職員 100% 保護者 89.9% 地域住民 100% 【次年度の方針】 教職員、保護者、地域住民とも目標を達成している。 安全点検の実施方法をグループで点検することにより、より多くの目で安全管理を行えるよう工夫する。

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、<u>デジタル※</u>を積極的に活用している。」 <u>※デジタル</u>・・・一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①デジタル機器活用体制を整える。 ・児童への一人一台端末の貸与及びオンラインでの活用体制。 ・校務運営システム（ミライム・学校用グループウェア）の活用体制。 ・デジタル連絡ツール（さくら連絡網）の活用体制。 ②デジタル機器活用のための研修等の実施。 ・スクールタクトの使用法研修 ・プログラミング活用研修 ・活用事例の紹介（学校用グループウェア上での共有）	【達成状況】 教職員 93.5% 【次年度の方針】 ハード面、ソフト面共に授業に必要な環境は概ね整っている。 より授業を充実させるために、必要性について検討し、学校でさらに準備を整えたい。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」 「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・地域住民の肯定的回答 93%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①児童の創意を生かしたあいさつ運動の推進を図る。 ・全児童があいさつ運動に関わることができるよう活動内容を工夫し、取組を強化する。 ・「横西っ子5つのきまり」である「いつでもあいさつ」の呼び掛けを行い、意識付けやあいさつの習慣化を図る。また、教職員が率先遂行する。 ・一斉下校の全体指導等において、登下校の際の地域の方へのあいさつの重要性を理解させる。	【達成状況】 児童 90.0% 教職員 83.9% 保護者 82.5% 地域住民 100% 【次年度の方針】 児童会の活動等であいさつ運動が行われている。あいさつの大切さについて、児童に浸透してきている。あいさつ運動に携わる児童の人数を増やしたり、低学年からあいさつ運動に携わる機会を作ったりするなど、児童が動ける場を増やしていく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 「私はきまりやマナーを守って生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①基本的生活習慣と規範意識を育成する。 ・「横西小よい子の一日」の周知徹底を図り、守れていない事柄については、学校全体で共通理解を図り、同一歩調での指導を行う。 ・「横西っ子5つのきまり」については、強化週間等を設け、児童への意識付けを図っていく。 ・道徳科や学級活動等において、人権の尊重・規範意識の向上に関する授業を実践する中で、児童の意識を高めていく。	【達成状況】 児童 90.2% 教職員 61.3% 保護者 87.9% 地域住民 100% 【次年度の方針】 結果から、教職員が児童にきまりやマナーをさせようと尽力していることが伺える。今後も職員が指導を継続していく。また、児童が自分の行動を「横西小よい子の一日」と照らし合わせて、振り返ることができる機会を増やしていきたい。

B3 児童生徒は、コミュニケーションをとることで生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 「私は、自分一人の力だけではなく、友達や周囲の人々とお互いにコミュニケーションをとることで、生活をよりよくしようとしている。」 「児童は、友達や周囲の人々とお互いにコミュニケーションをとることで、生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童の肯定的回答 75%以上 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上	①特別活動等の諸活動を通して児童間の交流する場面を充実させる。 ・学級活動でエンカウンターなどを実施しコミュニケーションをとって仲間と交流する。 ・学級活動や児童会活動の話合い活動を充実させてコミュニケーション力を育む。 ・地域学校園でのあいさつ運動や児童会、生徒会の交流を図る。 ②各教科の授業を通して、ペアやグループなどの学び合いの場の工夫を図る。	【達成状況】 児童 92.6% 教職員 83.3% 保護者 88.5% 【次年度の方針】 児童・保護者の肯定的回答の割合は数値指標を上回った。有効な手立てについて校内で情報共有を行うなど、取組を継続していく。
B4 児童は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。 【数値指標】 「私は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。」 「児童は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 75%以上 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上	①家庭学習の習慣が身に付くよう個々に指導を進めていく。 ・「陽南地域家庭学習のヒント集」に基づき、発達段階にあった家庭学習の時間の確保や適切な量の課題を出すようにし、基本的な学習習慣の定着に努める。 ・家庭学習強化週間を設定して、家庭学習の習慣化を図る。 ・家庭で学習してきた内容に対して、認め励ますとともに、意欲が持続するような手立てを工夫する。	【達成状況】 児童 84.6% 教職員 77.8% 保護者 85.2% 【次年度の方針】 児童・保護者の肯定的割合がともに数値目標を上回り、家庭学習の習慣が身に付いてきている。 学校と家庭が同じ目標をもって取り組めるよう、各種便りなどで協力を仰ぐ。
B5 児童は食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けている。 【数値指標】 「わたしは、食事のマナーや習慣をきちんと身に付けて食事をするができる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「児童は、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けている。」 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上	①給食指導の充実を図る。 ・基本的なマナーの指導を徹底し、偏食指導、栄養指導、衛生指導等、食育指導の充実を図る。 ・児童の食に関する正しい知識、保護者の望ましい食習慣についての意識等に関して調査を行い、必要な指導事項を明確にし、委員会活動とも連携しながら望ましい食習慣の定着を図る。 ・学校での食育指導の内容について、各種便りや学級懇談会を通して保護者に伝え、共通理解のもとで家庭と連携しながら指導していく。 ・学級担任と学校栄養士が連携を図り学級活動等での食育指導を推進する。	【達成状況】 児童 89.7% 教職員 88.9% 保護者 71.0% 【次年度の方針】 児童の肯定的回答は目標を 0.3% 下回ったが、教職員と保護者の回答は目標を上回った。 学級活動の年間指導計画に学級担任と学校栄養士とが TT を行うことを明記することで食育指導を推進する。

	B 6 児童は、規則正しい生活を送っている。 【数値指標】 「わたしは早寝・早起き・朝ごはんの習慣をきちんと身に付けて規則正しい生活を送っている。」 「児童は、早寝・早起き・朝ごはんなど、規則正しい生活を送るための習慣を身に付けている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 83%以上	①健康的な生活を送ることの大切さについて、指導の充実を図る。 ・学級活動・体育での保健指導・家庭科等において正しい知識の定着を図る。 ②生活習慣に関するアンケート等を活用し、児童の意欲付けを図るとともに、保護者への情報提供を行い、家庭と連携しながら指導していく。	B 【達成状況】 児童 81.5% 教職員 83.3% 保護者 80.5% 【次年度の方針】 教職員の肯定的回答は目標を上回っている。児童と保護者は若干下回っている。 学級活動・体育での保健指導や家庭科での正しい知識の定着や保護者への連携など継続的に行う。
--	--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度は、アンケートの項目が変わったため、比較ができない項目もある。昨年度のアンケートと比較可能な項目では、36項目中16項目で肯定的回答率が前年度と同じか上回った。児童・教職員・保護者とも、前年度の肯定的回答率を上回った項目、下回った項目それぞれ見られた。また、市の平均と同じもしくは上回った項目が児童の回答15項目のうち4項目、教職員が20項目中5項目、保護者が13項目中2項目、地域住民が7項目中7項目となっていた。

○A3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」では、児童・保護者・教職員の肯定的回答率が、すべて昨年度と比べて同じか上回った。今年度、学校行事の活動や学習活動でも、目標や「めあて」を明確にして取り組んできた成果と考えられる。

○A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」では、児童・教職員・地域住民とも高い肯定的回答率だが、保護者は昨年度を下回った。教育相談やいじめゼロ集会等の活動を積極的に発信していきたい。

○A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」では、児童・教職員・地域住民で、市の肯定的回答率を上回った。児童一人一人の自己肯定感を、学校教育全体を通して育成する活動が進んできている成果と考えられる。

○A14「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」においては、児童の肯定的回答率は、昨年度同様に市の平均を上回る結果となったが、保護者の肯定的回答率は昨年度に比べて減少してしまった。授業参観等だけでなく、各種便り等で授業の様子など、積極的に発信していきたい。授業については、「わかる・できる・楽しい」を目指す授業づくりを継続していきたい。

・B2「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」では、児童の肯定的回答率は、昨年度を上回ったが、教職員・保護者は下回った。規範意識の更なる醸成を目指し道徳教育や特別活動の充実を進めていく。

7 学校関係者評価

「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」の項目では、教職員や保護者で問題意識を感じているようだ。保護者にも、情報を発信して協力を求めていくことも大切だと思う。次年度も、地域と学校が連携を図り、地域の人材・教材等を活用した児童の学びの機会の確保や健全育成の取組を行ってほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度の取組を継続するとともに、心身共に健康で、自ら学ぶ意欲をもち、心豊かな児童の育成を目指し、保護者と連携を図って取り組んでいく。

○一人一人が「わかる、できる、楽しい」と学びを実感できる授業づくりに努めるために、職員の研修の充実、家庭学習などについての家庭との連携の実践を継続していく。

○家庭・地域と協働して子どもたちを育てる信頼される学校づくりに努めるために、学校と家庭が同じ目標をもって取り組めるように、積極的な情報発信をし、心豊かな児童の育成を目指し様々な教育活動を実践していく。

